

経営概要書

法人名：

株式会社 秋田ふるさと村

(株 3)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 粟津 尚悦	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課	
所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-46	設立年月日	平成5年5月18日	
電話番号	0182-33-8800	ウェブサイト	http://www.akitafurusatomura.co.jp	
主な出資 (出捐)者	出資(出捐)者名		出資(出捐)額(千円)	出資(出捐)比率(%)
	秋田県		250,000	50.5%
	横手市		54,000	10.9%
	羽後交通(株)		50,000	10.1%
	その他3市町村、26団体		141,000	28.5%
合計		495,000	100.0%	
設立目的	本県の文化遺産の継承、新たな郷土文化の創造拠点として、この二つの機能を十分に生かし相乗効果による県民文化の向上と地域産業の振興を図ることを目的に県等の出資により設立。			
事業概要	秋田ふるさと村の管理運営			
事業に関連する法令、県計画	なし			

2 平成29年度事業実績

集客は、夏の大雨や豪雪、週末毎の荒天に県立近代美術館の休館なども重なり厳しい状況であったが、自主のロングランイベントに加え、魅力ある単発イベントの開催や貸館・催事の誘致に努めた結果、目標は未達成ながらも昨年度をわずかに上回る入場者数となった。サービス面では、要望の多かったレストランの椅子席への改修や、入口正面のオブジェの移動によるサービス向上を図った。また、イベント等の様々な情報をSNSを使ってタイムリーに発信するとともに、マスコミへのニュースリリースを積極的に行うことで、知名度アップと入場者獲得に努めた。

<事業目標>

項目	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
自主事業収入(千円)	目標	314,189	313,435	299,523	318,013
	実績	323,386	306,545	301,352	-
入村者数(人)	目標	600,000	630,000	610,000	610,000
	実績	614,155	575,757	576,857	-
顧客満足度指数	目標	80	82	84	83
	実績	82	85	82	-

3 組織

① 役員数(H30.7.1現在) (単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	H29	H30	H29	H30	
常勤	1	1			支給対象者 (H29年度) 2人
内、県退職者	1	1			
内、県職員					
非常勤	7	7	1	1	平均年齢 62歳
内、県退職者					平均報酬年額 (H29年度) 2,950千円
内、県職員	1	1			
計	8	8	1	1	
内、県関係者	2	2			

② 職員数(H30.4.1現在) (単位:人)

区分	H29	H30	正職員
正職員	21	21	
内、県退職者			平均勤続年数 17.0年
出向職員			
内、県職員			平均年収 (H29年度) 3,485千円
臨時・嘱託	12	13	
内、県退職者			
計	33	34	
内、県関係者			

③ 取締役会回数

平成28年度	5	平成29年度	5
--------	---	--------	---

4 財務

① 損益計算書 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度
売上高	524,987	517,604
売上原価	296,969	294,295
売上総利益	228,018	223,309
販売費及び一般管理費	219,554	216,299
人件費(売上原価含む)	121,522	119,009
営業利益(損失)	8,464	7,010
営業外収益	865	557
営業外費用	15	6
経常利益(損失)	9,314	7,561
特別利益	2,428	3,795
特別損失		
法人税、住民税・事業税	6,344	5,840
当期純利益(損失)	5,398	5,516

② 貸借対照表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度
流動資産	649,763	658,380
固定資産	27,734	26,636
資産計	677,497	685,016
流動負債	80,357	82,190
短期借入金		
固定負債	18,647	18,817
長期借入金		
負債計	99,004	101,007
資本金	495,000	495,000
利益剰余金等	83,493	89,009
純資産計	578,493	584,009
負債・純資産計	677,497	685,016

(単位:千円)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)
	29,218	18,817	64.4%

※養老保険に加入している。

<主な経営指標>

項目	算式	平成28年度	平成29年度	H28-29増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	101.8%	101.5%	△0.3
流動比率	流動資産÷流動負債×100	808.6%	801.0%	△7.5
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	85.4%	85.3%	△0.1
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100	0.0%	0.0%	0.0

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

5 県の財政的関与の状況 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費	59,776	57,196	近代美術館維持管理業務委託、地域の魅力発信事業等
指定管理料	158,288	158,288	秋田ふるさと村指定管理料
年度末残高			
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 魅力的なイベントの開催に加え、秋田の文化を発信する行事の展開や秋田の食の提供に努め、県内外から多くの来場を得た。また、JNTOの外国人観光案内所への登録準備を進めた。	B 取締役会は、年間5回開催し、会計事務所による監査を毎月受けている。また、人・施設の有効的な活用と組織の活性化を図るため、経営改善の検討をスタートしたほか、執行役員制を導入した。	B 魅力的なロングラン・単発自主イベントの企画と貸館・催事の誘致を進めた。SNSによる情報発信のほかマスコミへのニュースリリースを積極的に行った結果、昨年度を若干上回る入場者実績となった。	A 平成29年度も連続して黒字を計上した。累積の欠損は既に解消済みである。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置付けられている法人であるが、県や周辺市町村との連携事業を行うなど一定の公共的役割を担っている。	B 取締役会は5回開催されており、役割や責任を遂行できる状況である。また役員間の共通認識の下、常勤役員及び執行役員が正職員とともに、法人運営や事業実施を的確に実行している。	B 年間を通し、多様な魅力のあるイベントを実施したことにより入村者数は昨年度より若干上回ったものの、顧客満足度指数とともに目標を下回った。自主事業収入については、達成している。	A 単年度損益が黒字であり累積債務もないことからA評価とする。なお、委託については、県からの依頼によるイベントの開催等経費であり財政的援助ではない。

III 外部専門家のコメント

年間の入場者数は目標を達成することができず、減収・減益となったが、安定的に営業利益を計上している（賞与引当の会計処理は、従来より、前年度の引当計上額を当年度に全額特別利益に戻入する処理を行っているので、特別利益の分だけ営業利益が過少計上となっている。改めることが望ましい）。利益剰余金も多額にあり、自己資本比率も85%と高い水準を維持しているため、財務基盤は安定しているといえる。また、有形固定資産の減価償却累計率は、83.8%と償却がかなり進んでいる。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画上は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられている。しかし、県事業に一定の役割を持つことから、引き続き、サービスの維持・向上への取組が求められる。	B 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。充て職役員の取締役会への欠席が見受けられ、今後、適切な関与が期待される。	B 概ね適切であると認められる。引き続き、魅力あるイベントの実施や積極的な情報発信など入場者数の確保に向けた取組が期待される。	A 単年度経常黒字を維持し、累積債務もなく、財務基盤は安定している。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B	B	B	A
<p>評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）</p> <p>経営上の財産である人と施設を最大限に活かす為に、経営改善に向けたプロジェクトを立ち上げ、その実現に向けて検討をスタートした。また、経営基盤の強化の一環として、施設を有効に活用する広告事業を企画し、県内外の企業や団体への営業を行い、広告主を獲得した。</p>			